

令和 7 年 3 月 1 1 日
総合政策局海外プロジェクト推進課

持続可能で気候変動に強いインフラ整備においてインドネシアと関係を強化

～第 11 回日・インドネシア建設次官級会合の開催結果（報告）～

国土交通省とインドネシア共和国公共事業省は、2月25日にジャカルタにて、第11回日・インドネシア建設次官級会合を開催しました。両国において「持続可能な都市開発」、「持続可能で気候変動に強いインフラ整備」をテーマに、両国の取組みの現状、課題及び今後の計画等を共有するとともに、今後の両国の協力関係を強化していくことを確認しました。

（１）日 程 ： 令和7年2月25日（火）9時30分～16時30分

（２）会 場 ： インドネシア公共事業省3階大会議室

（３）出席者（約30名）：

〔日本側〕 国土交通省 廣瀬技監 他

〔インドネシア側〕 公共事業省 ファタ事務次官 他

（４）結果概要：別紙のとおり



廣瀬技監、ファタ事務次官による開会挨拶



出席者による記念撮影

（問い合わせ先）

総合政策局 海外プロジェクト推進課

海外プロジェクト推進官 柴田 優作 （内線：25807）

プロジェクト推進第一係長 稲垣 剛史 （内線：25816）

TEL：代表 03-5253-8111、直通 03-5253-8315

【全体会合】

- ・両省を代表し廣瀬技監、ファタ事務次官から開会挨拶があり、その後、「持続可能な都市開発」、「持続可能で気候変動に強いインフラ整備」のテーマについて、インドネシア側・日本側双方から経験や事例などを紹介し、意見交換を行いました。
- ・「持続可能な都市開発」では、国土交通省都市局から日本のスマートシティ・3D 都市モデル (PLATEAU) の取組や TOD (公共交通指向型開発) などについて具体的な事例を交え紹介し、インドネシアからスマートシティの実現に向け、政府の目標やモデル都市などの紹介がありました。
- ・「持続可能で気候変動に強いインフラ整備」では、国土交通省総合政策局から自然と共存するインフラ整備の考えや日本の再生アスファルト技術など、国土交通省水管理・国土保全局から 3D 技術を活用した洪水被害情報や人工衛星 ALOS-4 の活用技術などを紹介し、インドネシアから気候変動に強い有料道路事業や公的資金を財源とした道路保全 PPP 事業について紹介がありました。

【個別分科会】

○第 10 回防災協働対話

- ・国土交通省から水管理・国土保全局が代表して参加し、洪水情報、海岸保全、砂防の 3 テーマが議論されました。
- ・洪水情報は、インドネシア側から洪水予測や洪水リスクマップの整備状況が紹介され、日本側から衛星データを活用した洪水リスクマップが紹介されました。
- ・海岸保全は、日本側から日本の制度や技術が紹介され、インドネシア側から海岸保全の現状と課題が紹介され、今後の協力について意見交換が行われました。
- ・砂防は、日本側から砂防施策が紹介され、インドネシア側から水分野の研究機関や砂防技術センターが紹介され、今後の協力について意見交換が行われました。

○道路分野における持続可能で気候変動に強いインフラ整備

- ・国土交通省から道路局が代表して参加し、「BIM/CIM と ICT」「再生アスファルト活用」「橋梁メンテナンス」をテーマに、両国側から経験や事例などを紹介し、意見交換を行いました (NEXCO 西日本、本州四国連絡高速道路もプレゼンターとして参加)。
- ・今後も道路分野における協力をより一層深化させていくことで一致し、ウェブ参加等 (17 社 36 名) も含め、活発な意見交換が行われました。

○建築分野における持続可能で気候変動に強いインフラ整備

- ・国土交通省から住宅局が代表して参加し、両国の建築の耐震化と省エネ化施策などについて紹介されました。
- ・質疑応答では、インドネシア側から耐震改修制度やグリーンビルディングについて、また日本側からは耐震データ収集方法などについて質問があり、活発な意見交換が行われました。

○上下水道分野におけるサービス強化のための PPP・ODA 事業の実施・

- ・国土交通省から水管理・国土保全局が代表して参加し、日本側から水道の漏水対策や下水道法に基づく制度設計に関する知見などについて紹介し、インドネシア側から、PPP を活用した漏水削減の取組みや ODA を含めたこれからの下水道事業などについて紹介されました。
- ・質疑応答では、料金の設定方法などについて活発な意見交換が行われました。